

病理上の事

事の上の病理

大層私は猫好きである、洋の東西で色々の時、色々の風土で、私が飼つた色々の猫の事を書いて一冊の大きな書物にする事もできようと私は思ふ。しかしこれは猫の本でない、それで私はただ心理上の理由で「玉」の事を書く。玉は私の椅子の側で寝ながら一種特別の聲を發して居るが、それは私の心に特別の感動を與へる。その聲は猫が子猫に對してのみ發する聲で、——柔かなやさしい震へ聲——全く愛撫の音調である。それから横に寝て居るその姿勢は何かもつて居る——何か捕へたばかりのものをもつて居る猫の姿勢である。前足は何かつかむやうにのばして眞珠のやうな爪は動いて居る。

玉と呼んで居るのは、綺麗だからではない、(但し綺麗ではある)ただ玉と云ふ名は普通飼猫につける女性の名であるからである。三毛猫は日本では珍らしいので、——始めて私の處へ重寶な進物として贈られて來た時は、甚だ小さい子猫であつた。日本の或地方ではこんな猫は縁起のよい猫で、鼠と同様お化をも退治する力があると信じられて居る。玉は今二歳である。脈管に外國の血があると思はれる。一般の日本の猫よりもつと優美でもつとほつそりしてゐて尾は著し

く長い。それだけが日本人の眼から見ると缺點である。多分彼女の祖先の一人が家康の時分にオランダカスペインの船で日本へ来たのであらう。しかしどんな祖先から来たにしても玉はその習性では全く日本の猫である。——たとへば玉は米飯をたべる。

始めて子供をもつた時には全く立派な母である事を證明した。子供の世話に精力と智慧のあらん限りをつくしたので、たうとう子供の養育と子供のための骨折とで氣の毒な程、又をかしい程やせてしまつた。彼女は子供等に、清潔法や、——遊ぶ事、跳ぶ事、相撲を取る事や——狩獵の法を教へた。初めのうちは勿論、ただ自分の長い尾をおもちやにして遊ばせてゐた。しかし、後に外のおもちやを見つけてやつた。野鼠家鼠ばかりでなく、蛙、とかげ、蝙蝠までも持つて來た。それから或日小さな八ツ目鰻をもつて來たが、それは近所の水田で、何とか工夫して捕へて來たものに相違ない。日が暮れてから私はいつとも臺所の屋根から狩に出られるやうに、——書齋に通ずる階段の上の小さい窓を、彼女のために開けて置いた。そこで或晩その窓から、彼女は子猫のおもちやに大きな蘘草履を持ち込んで來た。野原で彼女はそれを見つけた。それから一丈の板塀を越えて、家の板壁を上つて、臺所の屋根に上つて、それから小窓の格子をくぐつて、階段へ持ち込んだに相違ない。そこで彼女と子猫は朝までそれをもつて大騒ぎして遊んだ。それから草履は泥だらけであつたので階段をよごした。母としての第一の經驗で玉よりもつと幸福な猫はゐなかつた。

しかしそのつぎは運がよくなかつた。彼女はあぶない程離れた外の町で友達のを猫を訪問する習慣がついてゐた。それで或晩そこへ行く途中或野蠻な人間に害を加へられた。ぼんやりして弱つて歸つて來た。それから子猫は死んで生れた。私は彼女も死ぬだらうと思つた。しかし誰にも想像できない程早く回復した。——それでも明かに心はやはり子猫をなくした事で惱まされて居る。

或種類の一時的の經驗に關しては動物の記憶は奇態に薄弱で朦朧として居る。しかし動物の本質的記憶、——數へきれぬ幾千億の生活の間に蓄積された經驗の記憶は超人間的に生々として殆んど誤る事はない。……溺れた子猫の呼吸作用を回復する驚くべき巧妙な手際を思ひ見よ。始めて見た危険な敵、例へば毒蛇に面する時の教へられた事のない技倆を思ひ見よ。小さい動物とその習慣に關する彼女の廣い知識——彼女の草木に關する藥物學的知識——狩獵の場合又戰鬥の場合に處する彼女の戰略上の能力を思ひ見よ。彼女の知識は全く博い。それから彼女はそれを完全に、若くは殆んど完全に知つて居る。しかしそれは過去の生活の知識である。現在の生活の苦惱に關する彼女の記憶は憐むべく短い。

玉は自分の子猫が死んだ事は明かに覺えてゐない。子猫はある筈だとだけ知つて居る。それで庭に葬られて餘程になつてからもどこでもさがし、どこでもそれと呼んで見た。友達に色々愚痴をこぼした。私にも押入れ、戸棚を悉く——何遍となく——子猫がうちにはゐない事を證明す

るために、あけさせた。たうとうもうこれ以上さがしても駄目と云ふ事が自分でも分つて來た。しかし彼女は夢のうちの子猫と戯れる。それでやさしい愛撫の聲を出して居る。それから彼等のために、色々小さいまぼろしのものを捕へて來る、——事によれば記憶のどこか隴げな窓から、まぼろしの藁草履をさへもつて來てやる。……

(田部隆次譯)

Pathological. (Kotto.)